

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL83 平成30年10月

真誠会創立30周年
チャンスの時代
講師 医療法人



祝 真誠会創立30周年記念講演会

「幸運の女神には前髪しかない」

幸運を掴むためには前もって努力をしたり、神経を尖らせて常に女神が近くののを待つことが大切であるということを知る非常にわかりやすい言葉です。

私がこの言葉を知ったのは、元鳥取大学医学部解剖学教授・田中敬一先生の授業中に聞いた時のことでした。当時私は医学部の一年か二年の時でしたが強烈に私の心に焼き付きました。

私はその後、約20年後に開院を思いつき米子市（河崎）に真誠会医院を開院し、同時にホスピタウンという医療福祉の町の建設を創めました。しかしその後の道は想像以上に厳しいものでした。患者さんは増えない、経済的な困難などの苦しみは次から次へと襲ってきました。しかしながら自分が選んだ道は目的地を変えることの出来ない道でした。とにかく血の出るような努力を積み重ね、一步、一步前に進みました。そのうち少しずつほんの時々ですが、天使の前髪が掴めました。しかし次々に苦勞が襲ってくるので、さらにながむしらに努力を積み重ねる日々でした。

今振り返ってみれば次第に幸運の女神が現れて前髪を掴める機会も増えてきたと思います。そして開院してから30年、その苦勞と、幸運の女神との出会いの積み重ねの歴史の結果、現在の真誠会の姿、米子、弓浜、外浜、米子中央の4つのホスピタウンの姿があるのです。

そして私が感じた事は、前髪だけの幸運の女神がいつ近づいてくるか予想もできないし、いつ来るという保証も無い、それどころか実際には幸運の女神が近くに近づいている事に気が付くことさえわからないというのが真実だと思います。ましてや何もせず、努力もしないで幸運の女神に出会うことや、成功を願うことは儚い夢を見るに等しいのです。

言い換えれば人生はただひたすら努力に努力を重ね、勉強に勉強を重ね、血を吐くような努力をする事のみが間違いなく幸福の女神の前髪をがっちりつかむことができるという事であり、しかも人生を振り返って見たときにやっと幸福の女神と出会えていたのだ、と感ずることができるのです。

「幸運の女神には前髪しかない」という言葉は、私たちのロマンと冒険心を永遠にかきたてるすばらしい言葉だと思います。



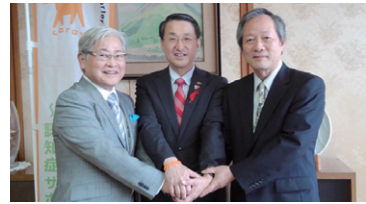
社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢



第8回 市民フォーラム 認知症 サミット 鳥取 in 米子 2018

日常生活で直面する問題と解決の助言

平成30年10月7日市民フォーラム第8回認知症サミット鳥取 in 米子(米子市文化ホール)が開催され、市民約400人の来場者があり、認知症予防の現状や当事者支援などについて認識を深めました。



県庁にて
平井知事に
面会訪問

平井知事 ビデオレター

鳥取県は認知症サポーターの数が全国でもとても多い県です。高齢者の方も多いので、そういう方々が何の心配もなく暮らしていける地域を目指しています。

リンカーンの言葉に「It's not the years in your life that count. It's the life in your years.」というのがあります。何歳まで生きるのかが大切ではなく、どのように生きていくかが大切であるということです。人生の中で、「これが私の人生」と言える地域社会ができればいいと思っています。

基調講演

認知症予防の現状と今後の展望

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座・教授
日本認知症予防学会・理事長 浦上 克哉 先生

本邦には認知症患者が462万人と報告され、その対策が急務と考えられます。そして、MCI(軽度認知障害)は400万人を数え、認知症患者は増加傾向にあるが、近年の予防研究で発症予防の可能性が考えられていることを指摘しました。

糖尿病や難聴などと認知症の関係、MCIをターゲットにした予防介入の有効性を、鳥取県琴浦町で平成16年から取り組んでいる運動、知的活動とコミュニケーションを例に説明しました。また、アルツハイマー型認知症では嗅覚障害が初期から起こってくるため、アロマセラピーによる嗅覚刺激の有効性が期待されています。



山田座長コメント



鳥取看護大学・鳥取短期大学
理事長 山田 修平 氏

認知症の予防は、個人の努力もありますが、地域全体で認知症の予防を考えることが大切ではないかと考えます。これからは自分の生き方が問われているように思います。私の好きな言葉に「未来の未来は現在である」というのがあります。いま現在の生き方がこの先の未来の方向を決めるということで、今、取り組むべきことに全力を尽くし自分らしく生きることが、人生を豊かにし、結果として認知症の予防になるかもしれません。

発表

「認知症の方とどのように接していくか」

医療法人・社会福祉法人真誠会 認知症教育担当師長
認知症予防専門士 認知症ケア上級専門士 小徳 美千子 氏

日々、認知症ケアに携わる介護現場の職員や家族で介護をしている方々から認知症ケアの質問を受けることが多く、「介助しようとしても断られる」「今の介助方法でよいのか自信がない」「認知症ケアの方法に正解があるのなら教えて欲しい」等々で、認知症の方の介護に不安を持っている方が多いと感じています。今は認知症に対する考え方も時代と共に変化し、「その言動には理由がある」と言われています。

例えば、認知症の方の「徘徊」が問題になっていますが、認知症の方はあてもなくさまよっているのではなく、目的があって行動しており、その途中で行き先を忘れてたり、帰る家を忘れてしまうのです。

認知症の方をケアするには、その人の習慣、考え方、希望を知ることが必要になります。そうするうちに、その方の興味のあること、なぜ拒否するのか、なぜ混乱しやすいのかが理解することが大切です。



発表

「畑づくりを通して認知症通所者と地域とのつながり」

弓浜脳活性クラブ真誠会
若竹庵 事業所長 杉谷 めぐみ 氏



認知症通所利用者が住みなれた地域で生活を継続する為、地域の方に認知症と言う病気や認知症になった方を知って頂く必要がありました。そのため、積極的に農作業やサロン、オレンジカフェに利用者とお出掛け、地域の方との関係作りに取り組みました。特に、農作業では、地域の中に農地を借り畑作りから行いました。農家の方にアドバイスを頂きながら利用者と共に草取りや土を耕し平成29年6月に「崎津活性化プロジェクト夢農園」を開園し、現在では、「青空市場」として月1回畑で出来た野菜や地域の方が作った野菜と一緒に販売し多くの方に喜んで頂いています。

高田座長コメント



南部町国民健康保険西伯病院
院長 高田 照男 氏

認知症の人を家族だけで支えるのは難しいです。そのためにいろんな所の手助けが必要です。認知症のことやその本人のことを知ること、そして、認知症の家族の会などを通じて家族を救うことも必要だと考えます。そして専門の医療機関を見つけること、あるいは地域で見守る「地域の力」が強まることを期待します。

講演

死に向かって成長する～認知症にならないことが人生ではない～

医療法人・社会福祉法人真誠会
理事長 小田 貢



人間にとって大切なことは、認知症にならないことは勿論ですが、それ以前に認知症になる80歳前後に至るまでにどのような人生を送るかということが大切です。



精神分析学者のエリクソンは「人間は死に向かって成長する」と言っています。人は死ぬまで人間として成長する努力が必要であり、予防の努力をしても認知症になればそれを素直に受け入れるしかないし、周囲の人も認知症になった人に尊厳をもって接しなければなりません。

「あんな認知症になりたくない」と認知症を毛嫌いするのではなく、「私が認知症になったらよろしくね」と素直にお願いしておくのがよいのではないのでしょうか。

老後は、「かわいいおじいちゃん、かわいいおばあちゃん」、そして、「目指せかわいい認知症！」

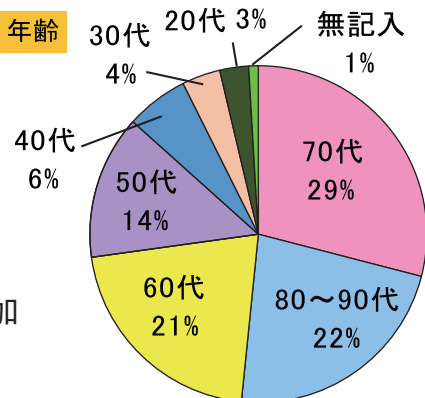
佐伯座長コメント



元新日本海新聞社中部本社主幹
佐伯 健二 氏

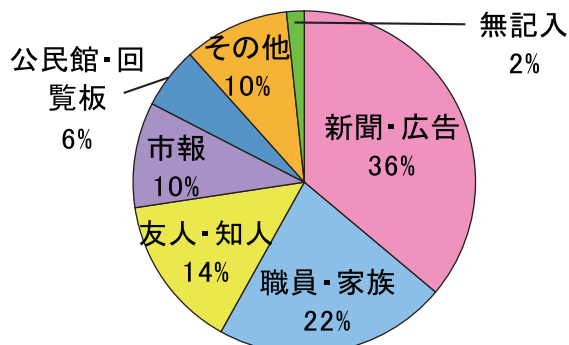
認知症になっても、まわりの方がやさしく見てくれるような人間関係を作るためには、目的、喜びを持った生き方をしなければいけません。身体は段々衰えていくかもしれませんが、心は成熟していきます。そのような生き方を目指しましょう！

当日来場者数
約400名
質問用紙：回収数
217名



高齢の方にも多く参加していただきました

今回、認知症サミットにご来場いただいたきっかけは？



日野原重明先生 召天一年記念講演会

講師／医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長 小田 貢

7月22日(日)、日野原・小田記念ホール(河崎)で、「日野原重明先生から学んだ教え」と題して講演会を開催し、約200名の市民の参加があり、会場は臨時の椅子で対応するほど満席となりました。

日野原先生(聖路加国際病院名誉院長)は医師として近代日本の臨床医学、予防医学に多大な貢献をされ、2005年(平成17年)に文化勲章を授章されました。

また、超高齢社会において高齢者がどの様に生きてゆくかという道標を示すために、「新老人の会」(2000年/平成12年)を立ち上げ、日本全国で啓発活動をおこない多くの国民に強く生きる勇気を与えてくださいました。『生きかた上手』などの著者がベストセラーにもなりました。先生は、2017年(平成29年)7月に105歳で天寿を全うされました。

日野原先生は、平成10年より医療法人真誠会の名誉理事長でもあり、私は愛弟子として日野原先生を偲び、そしてまた先生が遺してくださった永遠のメッセージを受け取り、日野原先生から学んだことについて講演を行いました。

今回の追悼講演に、石清水由紀子さんを東京からお招きしました。石清水さんは、日野原先生の秘書役を37年勤められ、先生とともに全国を講演で一緒にまわられ支えてこられた方です。講演を聴き、山陰、鳥取で日野原イズムが継承されることがわかり、安堵されたことと思います。

日野原先生の生き方、沢山の教えの言葉のうち、一つでも二つでも心に刻んで人生の支えにしていきたいと思えます。

私はこれからも日野原教の宣教師として、「日野原先生を学ぶ会」として、講演を行い語り継いで行きたいと思っています。



満席の会場で講演する小田理事長

第3回 中国地区介護老人 保健施設大会in鳥取



平成 30年 8月 30日(木)・31日(金)の2日間、米子コンベンションセンター BIG SHIP で「第3回中国地区介護老人保健施設大会 in 鳥取」が盛大に開催されました。

31日のシンポジウムでは、鳥取県を代表して、小田理事長が発表を行いました。

【演 題】 超強化型老人保健施設と退所者の受け皿としての地域づくり

医療法人・社会福祉法人真誠会 小田 貢

1. 強化型から超強化型への進化がもたらしたもの

真誠会では二つの老人保健施設とも、すでに2~3年前から強化型になっていたもので、今回の超強化型への進化に伴うスタッフの負担は、加算型から強化型に変わるときよりも少なかった。しかしながら、全体の仕事量は明らかに増えた。

そしてこの超強化型への進化のときには主に、リハビリスタッフ、相談指導員への仕事の負荷、精神的ストレスが、看護職、介護職の仕事の負荷、ストレスよりも多かった。

経営者は細心の注意をはらい、処遇の改善、働きやすさの改善(面談、時間外勤務の減少、有給休暇の取得率向上)に努める必要がある。

2. 地域包括ケアの充実(受け皿づくり)

老人保健施設が超強化型になればなるほど在宅、地域へ、より多くの高齢者が帰って行くことになる。それを地域で支えるためには地域包括ケアの充実、助け合いのある地域を作り上げることであるが、これは一長一短には出来ない。医療福祉複合体である真誠会、地域包括支援センターは約20年前から助け合いの地域づくりの啓発活動を展開している。

① 地域の活性化、町づくり(助け合いのきっかけ作り) ……………

- 和田でワタ作り(和田町における伯州綿の栽培)
- 四季折々の住民と一体となった活動
- 崎津夢農園(崎津地区で認知症通所の皆さんが野菜を作り青空市場で販売)

② いきいきサロンの支援

運動療法士、看護師、介護士の派遣、相談の窓口

③ オレンジカフェ(8箇所)を運営……………

④ 地域ケア会議の立ち上げに対する助言、支援

真誠会では部長クラスの専従者を任命し、各地区の地域ケア会議の必要性の啓発

⑤ 各種の啓発活動

助け合いの町づくり関連のシンポジウムや、認知症に関する市民フォーラムを約13年前から継続し、一回に400人から500人の市民が参加。

⑥ 生活支援隊(グループ内の会社) ……………

電話一本で生活に必要なあらゆるニーズに対応

⑦ 医療、保健、予防これからの老健のあり方

経営者、スタッフ、地域が一丸となって新しい社会を作っていく必要がある

① 地域の活性化、町づくり
地域交流ワタ作りプロジェクト

地域交流ふる里祭り

③ オレンジカフェ(8箇所)を運営

米子オレンジカフェ 弓浜オレンジカフェ 米子中央オレンジカフェ 菅生オレンジカフェ

支え愛連携拠点 + オレンジカフェ(8拠点)

富士見町オレンジカフェ 和田ふる里オレンジカフェ 浜の科オレンジカフェ

⑥ 生活支援隊

福祉用具相談・販売レンタル 見守り確認支援サービス 清掃サービス
中古医療機器介護機器の販売、修理 ゴミ処理 草刈・庭木剪定
住宅改修 おむつ宅配販売サービス 買物代行サービス 配達サービス

高齢者生活を総合的に支援する 生活支援隊

電話一本で生活に必要なあらゆるニーズに対応

平成30年度真誠会看護フェア

看護の日、看護の心をみんなの心に



5月12日は
「看護の日」

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日5月12日にちなみ、旧厚生省により、「看護の日」が平成2年（1990年）に制定されました。毎年、5月12日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。

平成30年5月9日（水）～5月11日（金）の3日間、平成30年度真誠会看護フェアを開催いたしました。4年目となる今年も3拠点ホスピタウン（米子・弓浜・米子中央）で行い、フェアには総勢200人以上の参加がありました。

特に人気だったのは、鳥取大学医学部分子制御内科特任教授・介護老人保健施設ゆうとぴあ統括施設長 河崎雄司先生による講演会であり、各会場で、「元気に過ごす秘訣」という演題で主に食事について話をされました。食習慣による大腸がん発症のリスクや影響について、また、地中海食（イタリア料理・スペイン料理・ギリシア料理など地中海沿岸諸国の伝統料理）が健康に対する良好な健康結果が報告されているそうです。お肉を食べるなら赤身のお肉、そして、乳製品や果物・野菜、オリーブオイル、適度な赤ワインを摂取し腸内環境を改善し、身体を内面から整えていきましょう。

各会場には、血圧測定、血糖値測定、骨密度測定など10を超えるブースを出展し、ご来場者の健康チェックや相談コーナーを設けとても賑わいました。



▲講演される河崎先生



▲測定値をもとに日常生活について話を聞きました



▲健康運動指導士による体操で身体と脳の活性を図りました



▲オレンジカフェでホット一息ティータイム



小田理事長講演会 米子市中央隣保館(富士見町)

日頃から地域の住民に対して人権啓発をされている米子市中央隣保館で、平成30年9月20日に第3回人権講座の講演会があり、小田理事長が「愛のあるところに人権侵害はない」と題して講演を行いました。

地域の方々が集まり、小田理事長は医師の立場から、主に高齢者や認知症の方、そして障がい者に対しての人権について話をしました。「どのような立場の人も、世間的に弱者と言われている人たちも平等に人権があります。反応が弱くなったとしても、無視をしたり、ないがしろにしてはいけません」「逆に、本人ができることはさせてあげましょう。過剰に世話をしすぎると本人の意欲低下につながります」「怒りは上から下へと連鎖します。怒られた人はその怒りを自分より立場が下の人にぶつけてしまいがちなので、うまく感情をコントロールすることが大切です」等、会場からの質問に対しても幅広く話しをました。

来場者からは「話す内容も良くとても聞きやすかった」「小田理事長と自分も同じ気持ちである」という感想をいただきました。



海外の福祉を勉強してきます！

真誠会からは5年連続、5人目の海外派遣です。



内閣府「地域コアリーダープログラム」に選考されるには、まず県に参加申込書・作文等を提出し、第1次選考を受験します。第1次選考を経て、内閣府へ推薦のあった候補者は、内閣府で行われる第2次選考へと進みます。第2次選考を通過した人は、最終合格者として事前研修に参加します。真誠会は5年前から毎年申込みをし、今回が5年連続、5人目の海外派遣となります。



社会福祉法人真誠会
総務課長補佐
真誠会ホスピタウンレジデンス
事業所長
竹下 将史

この度、内閣府の事業である平成30年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」の高齢者分野の一員として、平成30年10月上旬より約2週間、全国から選抜された同志9名でドイツ連邦共和国に行かせていただきます。

この事業は、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し支え合う「共生社会」を、地域において築いていくためには、地域住民等による社会活動の取組の充実が必要不可欠であるという認識のもと、課題解決に向けた取組に携わる日本青年を、先進事例のある外国に派遣します。そして、組織で活動する青年リーダーとの交流を通じて、各分野の課題対応の方策とともに、組織の運営、関係機関等との連携及び人的ネットワーク形成に当たって必要となる実務的な能力の向上を図ることを目的としています。

ドイツの介護制度は「在宅介護優先」の方針がとられており、日本が目指している「地域包括ケアシステム」の手本となっている国でもあります。世界中の国から日本を見ると、日本は今、世界一高齢化率が高い国で、日本が今、何に注目して、どういった課題解決を志ざしているのかということに興味を持っているのではないかと思います。

ドイツでは様々な機関を視察・意見交換をする予定で、ドイツで取り組まれていることを学び、私たちが取り組んでいる施策や活動の良いところを比較し、これからどのように実践していけるのか？これからの活動にどのように活かすことができるのか？多くの学びを得たいと思っています。

日野原・小田記念ホールイベント紹介

平成29年12月に完成した日野原・小田記念ホールでは、毎月いろいろなイベントを開催しています。地域の方、ご利用者の方と、多くの皆さまに利用していただいています！



4月 ●桜咲く笑顔の撮影会・琴と尺八の演奏会(4月8日)

お琴と尺八の演奏を聴きながら、煎茶のお手前も披露され、リラックスした雰囲気の中、笑顔の撮影会が行われました。ヘアセットやメイクもしてもらい、とっておきの笑顔を写真に残すことができました。

●助け合いの社会を目指して 自主活動団体・ボランティア団体 意見交換会 (4月17日)

助け合いの社会を目指して、沢山のボランティアの方にお集まりいただき意見交換会を開催しました。それぞれ垣根を越え多くの意見を出し合い、とても有意義な会となりました。



5月



●ハンドベル ジョイントコンサート (5月27日)

医療法人真誠会名誉理事長を務めておられた日野原重明先生は、NPO法人日本ハンドベル連盟の理事長に就任されておりました。そのご縁で、関西の「同志社国際ハンドベルクワイア」、地元の手ハンドベル「クレエ」によるハンドベルのコンサートが開催されました。

6月~ 毎月最終 木曜日



●ふれあい音楽会

6月から毎月最終木曜日にゴスペルオーブ主催で「ふれあい音楽会」を開催しています。障がいのある人もない人も、小さな子どもから高齢者まで、みんな一緒にボイストレーニングをして、大きな声で歌って、楽しい時間を過ごします。どなたでも参加できます。



7月

●日野原重明先生 召天一年 追悼講演会 (7月22日)

日野原重明先生召天一年追悼講演会を開催いたしました。

8月

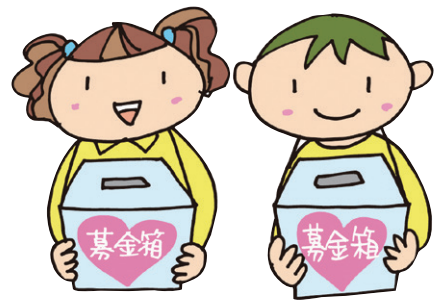
●福祉ネイル (8月11日)

福祉ネイルボランティアに来ていただき、施設の利用者を対象にネイルサービスをしていただきました。



「西日本豪雨災害」義援金のご報告

平成 30 年 7 月 5 日から発生した豪雨では、西日本の広範囲にわたり、甚大な被害が発生しました。この災害で被災された方々を支援するため、真誠会の利用者・ご家族さま、職員が義援金を集い、皆さまの温かいご支援により、総額 397,195 円が集まりました。日本海新聞社を通じて日本赤十字社へ寄附を行いました。一日も早い復興をご祈念申し上げます。



皆さま、ご協力ありがとうございました



毎週1個からできる
ボランティア!!

ヤッホー!キッズ
Ya~! for kids

フードドライブ 贈呈式



ヤッホー!キッズ事務局 足本安恵さん (左) と小田理事長 (右)

ご家庭に眠っていたり、余った食品はありませんか? そういった食品を持ち寄り、施設で暮らす子どもたちにお届けするのがフードドライブです。真誠会は約10年前からヤッホー!キッズ主催のフードドライブに協力しており、利用者様やご家族様、地域ボランティアさん、職員に呼びかけ食品を集めています。

平成30年9月12日に、第22回フードドライブ贈呈式が行われました。真誠会に集まった食料品(約600点)をヤッホー!キッズ事務局 足本さんに贈呈し、児童養護施設と自立支援ホームで暮らす子どもたちに寄贈しました。

知っ得
情報

健康は口から!

社会福祉法人真誠会 歯科衛生士 門脇 裕子

近頃の新聞やテレビの情報番組からすでにご存知の方もおられると思いますが、口の健康状態は全身の健康状態に大きく影響を及ぼします。

たとえば歯の状態が悪い人は緑黄色野菜、魚介類、肉類のような歯ごたえのあるものを避け、炭水化物、お菓子、油を多く含んだ食べ物のような柔らかいものばかり食べるようになります。その結果健康を維持するのに必要な筋肉を作る栄養素、体調を整える栄養素、動脈硬化予防に効果がある栄養素が不足してしまいます。

また、歯ごたえのあるものをしっかりと噛んでいないと、脳の新しい記憶の貯蔵装置として働いている部分「海馬」の老化が促進され、記憶障害を引き起こし認知症リスクが高くなります。

柔らかいものだけを食べていると噛む筋肉の筋力が出来ずいつの間にか噛む筋肉は減り、歯ごたえのあるものが噛めない、飲み込めない口になってしまうことも大きな問題です。

口が弱ると要介護状態・寝たきりの原因、引き金となりますので認知症予防、転倒予防、誤嚥性肺炎予防、栄養改善の為に、何より最期まで食べることを楽しむ為には自分の歯でも入れ歯でも「歯ごたえのあるものをしっかりと噛んで食べられる口」であることが必要です。





辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

I love 台湾

9月に職員旅行で台湾に行ってきました。台湾はボクにとっては4回目で、おまけにロータリークラブで仲良くしてるところがあるから、あまり外国という気がしません。職員たちは皆初めてだったので色々新鮮な驚きがあったようです。

まず交通事情です。台湾は半端ないくらいにバイクが多いです。道を歩いていると、集団ですぐそばを疾走していくのでボヤボヤしてられないです。それと車の運転が荒い。けど、運転が上手なため、事故になりそうではない。そう言えば韓国も車の運転が荒っぽかったです。

次に治安です。滞在は台北だけだったし、しかも怪しげなところには行かなかったからかもしれないですが、治安はよくて身の危険を感じることはなかったです。これがヨーロッパだと皆でかいし、人相の悪い黒人もいるので、小柄なアジア人だとどうしても緊張して身構えてしまいます。台湾ではまるで日本にいるかのように快適に過ごせました。

お次は台北動物園のパンダです。ここには2頭のパンダがいて、平日でも人も少なかったので1時間ほど我々だけでパンダを独占しました。それもちょうど昼食タイムだったので、うまそうに竹や笹をたべるパンダを間近で見られてとても癒されました。

最後に何よりも台湾の人たちは日本人にはとてもフレンドリーです。地元の人が行く食堂や夜市に行っても片言ながら、ちゃんと日本語で対応してくれたのには驚きでした。こちらの中国語は「ニーハオ」と「シェ、シェ」だけで事足りてしまいました。I love台湾です。今度行くときはローカル線に乗って田舎を旅してみようかな。



パンダと一緒にハイ、チーズ♪



2018 夏～秋



いえはら歯科
院長 家原 猛

今年の夏も長く続く破格の猛暑に、まいった。そして、西日本豪雨災害、台風21号、北海道胆振東部地震と、これまた想像以上の災害が続いた。不幸にして命を落とされた方々、被災された方々には、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。そして、できるだけ早い復旧復興を願うばかりです。

5月の大型連休、会津の磐梯山・安達太良山(あだたらやま)に登った。この時期の東北の山は山腹にも残雪があり、ルートの確保が難しいことが分かった。特に磐梯山では、沼の多い湿地で脇道を探すのに悩まされた。安達太良山山頂では猛吹雪に曝され、下山では悪天候もあって滑らないよう、泥だらけの奮闘となった。だが、大変なことはばかりではなかった。福島県会津出身、広島で農業新聞の記者をしているメンバーの実家に10名ほどでお世話になっての山行。桃などを作る農家で山菜の天婦羅、馬刺し、筍ご飯など心のこもった家庭料理、生ビール、上質の地酒などで最高の歓待を受け、ご家族との交流もありとても楽しい時間を過ごした。間で喜多方まで足を延ばして名物のラーメンも味わった。こうした若いメンバー達との山行は本当に楽しい。

7月は北アルプス。一の沢登山口から常念小屋経由で大天井岳(おてんしょうだけ)(大天荘泊)翌日、燕山荘で休憩して燕岳(つばくろだけ)そして合戦小屋名物のでかい西瓜を頬張って中房温泉に下山。この9月は憧れの上高地から涸沢ヒュッテを目指した。雨の中、梓川沿いを進んだ、河童橋、明神、徳澤園のCaféでお茶をし、横尾、本谷橋、以後沢の豊富な水流の音を聞きながら歩いた。約15km、標高差820mを6時間超でやっとたどり着いた。翌早朝4:00出発、北穂高岳3106mを踏破。素敵な北穂高小屋にはかわいい系のマドンナがいた。北穂ブレンドの深煎りのBlack coffeeがしっかりと和ませてくれた。来た道を下山し、涸沢ヒュッテのテラスで昼食。残念ながら涸沢カールからの穂高連峰の絶景は霧に包まれ見ることは出来なかったが、テラスで秋風に吹かれての一杯のビールは旨かった。横尾山荘16:00に到着。ゆったり汗を流して、仲間と酌み交わす酒と食事は最高。翌朝、ゆっくりと明神池辺りを散策。そうそう野生の猿がたくさんいました。昼食は嘉門次小屋で岩魚の塩焼きと蕎麦を堪能し、14:00上高地を後にした。米子に帰り着いたのは、日が変わってからでした。還暦の今年、怒涛の山道闊歩は続く。

真誠会 地域交流プロジェクト

地域にお住まいの方々と積極的に交流しています



和田町

『青空土曜市』

今年も朝市がやってきました!



～合言葉「売り手よし! 買い手よし! 世間よし! 和田もよし!」～

「青空土曜市」は、「スーパーがない」「買物ができない」等の声を受けて5年前に地域の方々で実行委員会を立ち上げ始めました。ふる里弓浜支え愛センターの軒下には、早朝より、地域の方々それぞれが作られた新鮮な朝採れ野菜や果物などを持ち寄り、その表情は自信に溢れた笑顔。合間には支え愛センター内で茶話交流、冷たい飲み物や職員手作りお漬物等が出され、大賑わい。また、毎回蒜山直送のとうもろこし・大根も大人気で即完売!『いらっしゃいませ! ようこそ朝市へ～売り手よし! 買い手よし! 世間よし! 和田もよし!』の元気一番!笑顔一番の呼び声がさわやかな青空に吸い込むように響きました。



大人気のとうもろこしに並んで・並んで・長蛇の列



茶話交流に活発な地域の情報交換!

崎津地区

崎津活性化プロジェクト 崎津夢農園



高齢者と子どもたちが一緒になって苗付けをしました

5月 さつま芋の苗植え・ふれあい体験

5月10日に夢農園でさつま芋の苗植えを行いました。同時に、アニマルセラピーとしてポニーやヒツジ、ヤギ、ウサギなどがやって来て、施設の利用者、地域住民、園児、小学生の90名が集まり、ふれあい体験・餌やり体験を行いました。



9月 さつま芋収穫祭

9月19日に、5月に植えたさつま芋の収穫祭を行い施設の利用者、地域住民、園児、小学生の100名近くが集まりました。事前に準備したさつま芋を使って地域のご婦人方がさつま芋おにぎり、豚汁を作って下さり参加者へ振舞いました。園児や小学生の歌や踊りもあり賑やかな収穫祭を行うことが出来ました。次は、大根や白菜の冬野菜や春に向け苺の苗植えを予定しています。

今後も畑を通じて地域住民、子ども、障がい者、高齢者が共に作業し触れ合う機会を作っていきます。



こんな大きなお芋が取れました!!

ホスピタウンの夏祭り

第24回米子ホスピタウン夏祭り

平成30年8月4日に米子ホスピタウン夏祭りを開催いたしました。職員の威勢の良い『ワッショイ、ワッショイ』の声で祭りが始まり、会場は熱気を帯びていました。そして、ステージでは河崎地区の地域の皆様による「花笠踊り」、「北海ソーラン」、「フラダンス」、「盆踊り」が披露され、盆踊りではご利用者、職員も参加して踊りました。



神輿が夏祭り会場に登場しました



子どもたちはヨーヨー釣りに夢中になってます

米子中央ホスピタウン (福米)

ローズガーデン (富士見町)

皆生ピースポート・ローズガーデン (新開)

第1回米子中央3施設合同夏祭り

平成30年8月5日、地域と施設の交流を目的に、皆生ピースポートで3施設合同の夏祭りを開催しました。バザーを開いて、地域の皆さんとふれあう機会を持ちたいという思いがあり、開所前から計画しておりました。バザーには、職員の家族の協力のもと出身地から、日南産野菜・境港産鰯、隠岐産さざえ、大山町産野菜、境港産野菜が届きました。また、地域からは「あかり広場」から焼きたてのパン、車尾地区「いたや」から衣料品、蒜山からはとうもろこしも届き、バザーが一層華やかになりました。

ローズガーデンでは、カラオケ大会が行われ、のど自慢に盛り上がっていました。

合同夏祭りで、チームワークが繋がり、「家族と一緒に作り上げた夏祭り」、第1回を盛会に終えることができました。

いらっしゃいませ
新鮮なサザエと
魚がありますよ～



第19回弓浜ホスピタウン地域交流夏祭り

平成30年8月19日に弓浜ホスピタウン地域交流夏祭りが開催されました。

和田荒神こども太鼓の皆様による『お祭り太鼓』で始まり、「和田舞踏教室・春蘭会」による加茂川音頭など、様々な演目が披露されました。

屋台やバザーの全売上は、西日本豪雨災害の被災者支援のため日本海新聞社を通じて日本赤十字社へ寄附いたしました。

和田荒神こども太鼓による演奏



バザーの商品に興味津々